

## まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによって、**JIS A 0002** : 1966 は改正され、この規格に置き換えられる。

今回の改正によって、この規格の本体は、**ISO 1791** : 1983, Building construction—Modular coordination-Vocabulary に一致するものとなった。

## 建築モジュール用語

## Glossary of terms used in building module

**序文** この規格は、1983 年に第 2 版として発行された **ISO 1791, Building construction — Modular coordination — Vocabulary** を翻訳し、技術的内容を変更することなく作成した日本工業規格である。

なお、この規格で下線の点線を施してある箇所は、原国際規格の中で定義されずに用いられている用語について、便宜のために日本工業規格として追加した事項である。

**1. 適用範囲** この規格は、建築モジュールに関する主な用語について規定する。

この規格は、**JIS A 0004 “建築のモジュラーコーディネーションの原則”** に規定されるモジュラーコーディネーションの原則に一致し、建築物の設計と建設、そして、それらの建築物で使用される構成材の設計と製造のために必要な用語を定義する。

**備考** この規格の対応国際規格を、次に示す。

**ISO 1791 : 1983, Building construction — Modular coordination — Vocabulary**

**2. 用語及び定義**

番号	用語	定義	対応英語（参考）
1	ディメンジョナルコーディネーション*	設計、製造、組立のための、建築構成材及びそれらを組み込む建築物のコーディネーティング寸法に関するサイズに関する取り決め。 <b>備考</b> ディメンジョナルコーディネーションの目的は、次のようなものである。 a) 切ったり継ぎたしたりせずに、現場で構成材の組立を可能にすること。 b) 様々な構成材の交換を可能にすること。	dimensional coordination
2	モジュラーコーディネーション	ベーシックモジュール又はマルチモジュールを用いるディメンジョナルコーディネーション <b>備考</b> モジュラーコーディネーションの目的は、次のようなものである。 a) 生産される構成材のサイズの種類を少なくするため。 b) 構成材の配置に際して、建築設計者によって多くの自由度を与えるため。	modular coordination
3	構成材 <sup>(1)</sup> *	明確な単位として形づくられ、3 方向において定められたサイズを持つ建築用生産物。 <b>注<sup>(1)</sup></b> 建築構成材は、設備、造作、造りつけ家具を含む。	component

番号	用語	定義	対応英語 (参考)
4	モデューラ構成材	<p>コーディネーティングサイズがモジュールである構成材。</p> <p><b>備考</b> モデューラ構成材は、すべての方向がモデューラサイズである必要はない。例えば、外壁の厚さ</p>	modular component
5	エレメント*	建築材料及び／又は建築構成材でつくられる、建築物の機能的な部分。	element
6	モデューラエレメント	コーディネーティングサイズがモジュールであるエレメント。	modular element
7	モジュール	ディメンジョナルコーディネーションにおいて増分のステップとして用いられるサイズの単位。	module
8	ベーシックモジュール	<p>モデューラコーディネーションにおいて用いる基本となるモジュールであり、そのサイズは、建築物及び構成材に対して全般的に適用するために選ばれる。</p> <p><b>備考</b> ベーシックモジュールの数値は、最大限の自由度と利便性との理由で 100mm が選ばれるベーシックモジュールの記号は、M である。</p>	basic module
9	マルチモジュール	ベーシックモジュールの整数倍であるモジュール。	multimodule
10	プランニングモジュール <sup>(1)</sup>	<p>特定の適用のために選ばれるマルチモジュール</p> <p><b>注<sup>(1)</sup></b> プランニングモジュールが構造エレメントの配置に用いられる場合、“構造モジュール”と呼ばれることもある。</p>	planning module
11	モデューラサイズ	ベーシックモジュールの整数倍であるサイズ。	modular size
12	サブモデューラインクレメント*	ベーシックモジュールの特定の分数値である、サイズの増分。	sub-modular increment
13	コーディネーティング寸法	組立に関する構成材の特性に従って、組立における二つ以上の構成材の相対的な位置を定めるコーディネーティングスペースの寸法。	coordinating dimension
13.1	コーディネーティングサイズ*	コーディネーティング寸法のサイズ。	coordinating size
14	テクニカルサイズ*	主に経済的な考え方によって決められるサイズ。それは、モジュールに一致することもある。	technical size
15	優先サイズ	他のものより優先して選ばれるモジュール又はマルチモジュールのサイズ。	preferred size
16	基準スペース <sup>(1)</sup>	<p>公差及びジョイントクリアランスのための適切な余裕を含んでいる構成材、集成部品、又はエレメントを納めるために、建築物に割り当てられるスペース。このスペースは、基準面によって境界づけられる。この基準面はモジュール面である必要はない。</p> <p><b>注<sup>(1)</sup></b> コーディネーティングスペースは、基準スペースを満たすように合わされる。基準スペースのサイズは、したがってコーディネーティングサイズと一致する。</p>	reference space

番号	用語	定義	対応英語 (参考)
17	コーディネーティングスペース <sup>(1)</sup>	公差及びジョイントクリアランスのための余裕を含んで構成材に当てがわれ、コーディネーティング面で境界づけられるスペース。 <b>注<sup>(1)</sup></b> コーディネーディングスペースは、基準スペースを満たすように合わされる。基準スペースのサイズは、したがってコーディネーディングサイズと一致する。	coordinating space
18	コーディネーティング面	ある構成材と他の構成材とを調整するための基準となる面。	coordinating plane
19	基準系*	構成材、集成部品、又はエレメントのサイズ及び位置が関係づけられる点、線、面の系。	reference system
20	モデュラーグリッド	並列して並ぶ線間の距離が、ベーシックモジュール又はマルチモジュールである直交座標の基準系。このマルチモジュールは、グリッドの二つの方向で異なってもかまわない。	modular grid
21	モデュラースペースグリッド	並列して並ぶ面間の距離が、ベーシックモジュール又はマルチモジュールである3次元直交座標の基準系。このマルチモジュールは、スペースグリッドの三つの方向で異なってもかまわない。	modular space grid
22	モデュラー面	モデュラースペースグリッドにおける面。	modular plane
23	モデュラー線	二つのモデュラー面の交差によって作られる線	modular line
24	モデュラー床面	建築物の各階の全体にわたって連続している水平方向のモデュラー面で、床仕上げ材の上面、未仕上げの床の上面、構造床の上面のいずれかに一致する。	modular floor plane
25	モデュラー階高	ある階のモデュラー床面から、その直上階のモデュラー床面間までの垂直寸法。	modular storey height
26	モデュラー室高	ある階における、床の仕上げ材上面のモデュラー面と、仕上げられた天井のモデュラー面との間の、垂直寸法。	modular room height
27	モデュラー床天井厚	床の仕上げ材上面のモデュラー面と、仕上げられた天井のモデュラー面との間の、モジュールである床ゾーンの垂直寸法。	modular floor height

番号	用語	定義	対応英語（参考）
28	ゾーン	<p>モジュラーの面間のモジュール又はノンモジュールであるスペース。これは、ひとつの構成材及び複数の構成材のために用意される。そして、このスペースは必ずしもすべてが満たされている必要はなく、また、空いていてもかまわない。</p> <p><b>備考</b> ノンモジュールとは、モジュールの寸法に合っていないという意味である。</p>	zone

**備考1.** “\*” が付してある用語は、原国際規格では補助的用語として規定されている。

2. 定義で用いられている用語で、“寸法”、“サイズ”、“公差”及び“ジョイントクリアランス”については、ISO 1803, Building construction – Tolerance – Expression of dimensional accuracy – Principles and terminology 及び ISO 2444, Joint in building – Vocabulary で次のように規定されている。

寸法（対応英語：dimension）	：特定の方向における大きさ，特定の線に沿っての大きさ，又は特定の角度における大きさ。
サイズ（対応英語：size）	：決められた単位で量として表した寸法の大きさ。
公差（対応英語：tolerance）	：サイズの上限と下限との差。
ジョイントクリアランス（対応英語：joint clearance）	：隣り合う構成材のジョイント面間の距離。すなわち、はめあいを考慮したジョイントギャップ幅。

#### 建築モジュール等 JIS 改正原案作成委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	真 鍋 恒 博	東京理科大学工学部
(幹事)	奥 田 宗 幸	東京理科大学理工学部
	安 藤 正 雄	千葉大学工学部
	居 合 献 弥	建設省住宅局
	石 井 守 守	住宅・都市整備公団建築技術試験所
	岩 井 一 幸	東京家政学院大学人文学部工芸文化学科
	大 嶋 清 治	工業技術院標準部
	大 山 認	トステム株式会社ビル技術統轄部
	勝 又 英 明	武蔵工業大学工学部
	古 瀬 敏 敏	建設省建築研究所
	小 鍵 隆 史	通商産業省生活産業局住宅産業課
	杉 山 義 孝	建設省住宅局
	俵 谷 莞 三	株式会社梓設計
	橋 本 繁 晴	財団法人日本規格協会
	深 尾 精 一	東京都立大学工学部
	福 水 健 文	通商産業省生活産業局
	百 瀬 深 人	社団法人プレハブ建築協会
	吉 田 公 人	建設大臣官房官庁営繕部